

研究紹介

■ 沿岸域・海洋管理

沿岸域・海洋の持続的利用のための管理のしくみを考える

沿岸域は本来自然の恵み豊かな場ですが、人間活動の圧力により生態系サービスが劣化しています。一方、海洋では、新たなエネルギーと海底鉱物資源を求める開発がさかに行われています。沿岸域であれ海洋であれ、資源環境を持続的に利用するためには、多様な利害関係者が対話を通して学び合う形態の利用管理が不可欠です。当研究室では、こうした資源環境管理のしくみ作りについて現地調査にもとづく研究を行っています。



「いわきの海と魚を語ろうーいわきサイエンスカフェ」（福島県いわき市）にて



■ 水産経済史

水産業の歩みと経済発展への貢献に関する研究

水産経済史は、海の恵みで生きてきた人々の歩みを考える学問です。過去の貴重な記録（本学の図書館にはたくさんあります！）を読むと、今の水産業の成り立ちだけでなく、失われてしまった水産業の様々な姿が見えてきます。そこからは、単に食欲を充たすだけでなく、農業や商業の発展にも水産業が大きく貢献したことが判ります。また、過去に水産業が抱えた問題を検討していると、それが水産以外の分野で今起きている問題と似ていると感じる時が多々あります。広く社会全体で共有すべき教訓を、水産業の歴史から見つけることもできると思います。



■ 海洋スポーツ、スポーツ方法学

海洋を含む水域での自然体験活動やスポーツ活動が人間に及ぼす影響

海と人間との関係を、直接的に海と関わる自然体験活動を通して得られる変化、活動から受ける影響という視点から、実験や調査を通して分析しています。例えば、活動の安全や健康という面からは飲酒後の水浸が人体に及ぼす影響などを調査したり、活動の効果測定という面からは海辺での自然体験活動が参加者に及ぼす影響について質問紙や観察等を用いて調査したりしています。この他、水中ホッケーやトライアスロン、シーカヤック、セーリング、SCUBA ダイビングなどの水上・水中を活用したスポーツを題材とした研究を行っています。



■ 海洋環境法・海洋管理制度論

海洋資源の制度を海洋環境の文脈で把握、探究

国連海洋法条約では、これまで海洋生物資源と非海洋生物資源が法的な「資源」として捉えられてきました。しかし、最近、水中文化遺産もまた資源として認識されるようになってきています。本研究室では、これらの海洋資源を排他的経済水域や大陸棚などの制度との関連で論じつつ、これを海洋環境の視点から「海洋資源をどのように扱うか」を探究しています。学生たちは、海底鉱物資源、海洋生物資源および水中文化遺産などについて、国際的な動向を踏まえつつ自国のありうべき政策を論じています。

